

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2392900052 | | |
| 法人名 | ㈱サカイ | | |
| 事業所名 | グループホーム あじさい「みゆき」 1階 | | |
| 所在地 | 愛知県刈谷市御幸町4-212 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年8月5日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年3月17日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2392900052-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人『サークル・福寿草』 | | |
| 所在地 | 愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号 | | |
| 訪問調査日 | 令和4年9月14日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の利用者様との関わりを大切に本人様がやりたい事・好きな事をできるように支援させて頂いている。 コロナの影響で少なくなりましたが地域の行事(溝掃除・祭り・公民館等)が開催されていれば参加させて頂き、私達施設も地域の一部として関わりをもてるようにしている。 畑で旬の野菜を育てたり季節に合わせた創作レクを行ったり季節感を大切にしている。 社内研修が充実しており職員の介護スキル向上をはかりそれにより質の高いケアの提供に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の方との交流については、感染症問題が続いていることもあり困難な状況が続いているが、当ホームが地域の役員(組長)を引き受けることにあり、地域貢献にもつながる取り組みが行われている。 運営推進会議についても、感染症の状況をみながら可能な範囲で実施しており、会議の際には地域の方や家族の参加が得られる等、会議の関係者との情報交換等の取り組みが行われている。 当ホームの運営法人では、年間を通じて様々な職員研修の取り組みが行われており、ホームでも職員間で研修に参加する機会をつくりながら、職員の資質向上につなげる取り組みが行われている。 災害に関する取り組みについても、年間を通じて様々な状況を想定した訓練を実施しており、職員間の連携や非常時の対応を確認する取り組みが行われており、利用者や家族の安心感にもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。 | 職員間で意見を出し合いまとめたものを毎朝朝礼で朗読し共有している。 管理者・職員は実践に繋げている。 | 運営法人の基本理念を支援の基本に考えながら、ホーム独自の理念がつけられている。日常の申し送りの時間に職員間で理念を唱和する機会をつくり、理念の共有につなげている。また、職員が目標をつくり、理念の実践につなげる取り組みも行われている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 | 自治会に加入している。コロナの影響で少なくなっているが開催されていれば地域の行事に参加させて頂いている。他事業所から食材を分けて頂く事もありそのお礼に雑巾をお渡ししている。 | 現状、地域の方との交流が困難な状況が続いているが、ホームは地域の自治会に入り、今年度は地域の役員を引き受ける等、現状で可能な取り組みが行われている。また、地域の活動に参加する交流が行われている。 | 以前行われていた移動販売や近隣のデイサービスでのカフェの取り組みがなくなっていることもあるため、ホームの取り組みにも期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。 | 地域包括の活動だよりを玄関先に掲示し誰でも読める様にさせて頂いている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | コロナの影響で書面開催で行っている月もあるが利用者様の状況・施設の取り組みを文章や写真を活用し伝え、参加者の意見や要望を伺いサービスの向上に活かしている。 | 会議については、感染症の状況をみながら実施を検討しており、会議を実施する際には、地域の方をはじめ、様々な分野の方の参加が得られている。また、会議の際には、ホームから運営状況を記した文書の配布が行われている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。 | 運営推進会議の参加お声かけをさせて頂いている。また、市の担当者とは事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え協力体制を築いている。 | 市内の介護事業所が集まる会議や研修会等が行われる際には、ホームからも職員が参加する機会をつくり、情報交換等が行われている。また、市の事業でもある「はつらつサポート」事業への協力も行われている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 新人研修・社内研修で身体拘束をしない事への理解をしている。また、3カ月に一回身体拘束未実施減算会議を開催し身体拘束をしないケア方法について職員で意見交換をして意識を高めている。 | 身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ホームの出入り口についても職員間で利用者を見守る等の対応が行われている。また、身体拘束に関する委員会を通じた研修や定期的な職員研修を実施し、職員の振り返りにつなげている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 社内研修で学んでいる。ヒヤリハットやカンファレス等を活用し情報を共有し虐待防止に努めている。また、施設で発生してしまった虐待内容は会社内で共有し同じ事が起きないように注意を払っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。 | 社内研修での際学機会があるが、日常的に学ぶ機会は設けていない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 契約時は利用料金・サービスについて契約書を用いて十分に時間を設けて契約担当者が説明させて頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 定期的にお客様アンケートを実施し、結果について話し合いをしている。また、日頃の面会の際にも気になる事等あれば伝えて下さいとお伝えしている。 | 現状、家族との交流が困難な状況が続いているが、例年は食事会を通じた交流の機会がつくられている。運営法人でアンケートの実施が行われており、家族からの要望等の把握につなげている。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 毎月一回実施している施設会議・ユニット会議で職員の意見を集め、必要な内容は本部に伝えている。職員が意見を出しやすいように努めている。 | 毎月の職員会議や日常的な申し送り等を通じて出された職員からの意見等は、管理者を通じて運営法人に報告し、ホームの運営への反映につなげている。管理者による職員面談の取り組みや職員間で役割分担(ホーム担当)を行う取り組みも行われている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | ホーム担当委員を設置し毎月優秀賞の発表を行っており、優秀賞には金一封が送られる。また、職員が働きやすいよう業務マニュアルの改訂・職場環境の見直しを行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 社内研修への参加を促したり外部の研修の案内を職員サイトにあげたり介護ケアの向上をはかっている。また、毎月の会議を利用し勉強会を開催している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | コロナの影響により少なくなっているが自施設周辺のサービス事業所と連絡は取り合っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。 | サービス開始時には、本人様の不安を和らげるよう話を傾聴したり、積極的に関わり本人様の思いに近づけるよう信頼関係作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。 | 入所前のアセスメントにて困っている事や不安な事・要望に耳を傾けている。入所後も状況報告を行っている。ケアプラン見直し月に再度聞かせて頂いている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | アセスメント時必要とされている支援を見極める。それからサービス開始時情報を集め職員間で話し合い、本人様・ご家族様へ説明・了承を得てから提供している。必要に応じて訪問歯科・訪問マッサージの提供もある。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。 | 出来る事・出来ない事を見極め、本人様の能力を活かせるように日々のお手伝いを職員と共に行って頂いている。信頼関係は築けていると思う。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。 | 月に一度メッセージカードと日々の写真をご家族様に送付させて頂き、施設でのご様子を伝えている。必要な場合はお電話でも様子をお伝えさせて頂いている。コロナ前は各行事への参加の呼びかけも行っていた。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | コロナの影響により少なくなっているが地域の行事に参加しお知り合いの方と会えばお話を楽しまれている。 | 現状、外部の方との交流が困難な状況が続いており、入居前からの関係の方との交流等も困難な状況となっている。ホームでは、家族との面会の機会をつくる取り組みや医療機関への受診等を通じて、馴染みの方との関係継続にもつなげている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。 | レクリエーションで利用者様同士関わりを持てるよう促している。また、利用者様同士のコミュニケーションが途切れない様に職員が橋渡しを行っている。相性を考慮しリビングの席を考えている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。 | 移り住む先の関係者に十分に本人様の状態を伝え、出来る限り相談を行っている。ご不孝があった際には連絡も頂いている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 職員で担当制を作り利用者様の把握に努めている。また、普段の会話・行動・表情等から意向を汲み取る努力をしており、職員間で共有。ご本人様本位で検討している。 | 職員間で利用者を担当する取り組みや利用者毎に分けられた支援経過記録等を活用しながら、利用者の意向等の把握が行われている。また、ユニット毎に毎週カンファレンスの時間をつくっており、利用者や家族の意向等を検討する取り組みが行われている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | 入居前のアセスメントでご家族様・関係者・本人様から生活歴を伺い職員間で共有し把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。 | 毎日の申し送り時に一人ひとりの情報を共有し安心・安全の把握に努めている。本人様の生活パターンやペースを大切にしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。 | 毎日の申し送りや週一のカンファレンスを通し、現状に適した介護計画を作成している。なればその情報を会議で話し合い介護計画に反映させている。 | 介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。また、日常的にも介護計画の内容に合わせたチェック記録を残し、担当職員も関わりながら、毎月のモニタリングを実施している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 各利用者様の支援経過記録ノートに気づき・体調等随時記入し記録に残している。また、それらに目を通して情報を共有している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | 通院介助が必要な方には通院の支援をしている。訪問歯科や訪問マッサージ等各利用者様に合わせた柔軟な支援やサービス提供に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | コロナの影響により少なくなっているが地域の行事(溝掃除・祭り・公民館等)の開催日時等を把握し、外出を楽しんで頂いている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | 施設でのかかりつけ医による往診は月に2回あり利用者様の状態を伝えている。本人様の身体状態に合わせ今まで受診されていた病院の継続も可能。その場合日頃の身体状態の報告を行っている。 | ホームでは、複数の医療機関と連携した支援が行われているが、利用者の中には今までのかかりつけ医を継続している方もいる。受診については、家族による対応と職員による対応が行われている。また、看護師が勤務しており、医療面での支援が行われている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。 | 週一回の訪問看護師による健康管理の実施をしている。その際ご利用者様の身体の変化等を伝え、適切なアドバイス・対応を受けご利用者様の受診や看護を受けられるように支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 管理者が病院・ご家族様に施設での身体状態を伝えている。また入院中の情報も集め退院後の支援方法を検討している。退院後受け入れが決まったら退院後の生活への助言等も頂くようにしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | 施設で出来る事を説明させて頂き、ご本人様・ご家族様が望まれる事を確認し、医療関係者と共に職員間でも支援に取り組んでいる。 | 身体状態が重い方も生活を継続することができるよう、協力医とも連携した支援が行われており、看取り支援も行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ね、次の生活場所への移行も含めた、支援可能な内容の確認等が行われている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。 | 社内研修で勉強している。また緊急時マニュアルがいつでも確認出来る様事務所に置いてあり、職員はそれに目を通して学習している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 | それぞれ年2回の避難訓練をご家族様と共に学んでいる。コロナの影響により地域との協力体制は築けていない。 | 様々な災害を想定しながら年6回の避難訓練を実施しており、夜間想定訓練や通報装置の確認が行われている。例年は、地域の災害訓練が行われてる際にはホームからも参加する機会をつくっている。また、水や食料等の備蓄品の確保も行われている。 | 感染症問題が続いていることもあり、災害に関する地域の方との交流が困難な状況が続いている。災害対策に関するホームの継続的な取り組みに期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。 | 言葉や表現が困難な方・耳が聞こえにくい方等に合わせた声かけ・対応をしている。また、ご利用者様の人格を尊重し、思いやプライバシーを考え、損ねない言葉かけ・対応をしている。 | 職員による利用者への対応を意識するように、基本理念をはじめ、職員間で日常的な振り返りを通じた注意喚起等が行われている。また、運営法人全体で職員の接遇に関する研修を実施しており、職員の意識向上につなげている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。 | 個々の能力に合わせ、選択できる事はなるべく本人様に選択して頂くようにしている。難しい方には選択の方法を工夫している。いつでも利用者様が重いや希望を表現できるよう遠慮なく言える雰囲気作りに努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | 1人ひとりのペースを大切にし、なるべくその方に合わせられるように努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。 | 起床時の洗顔・整容・髭そり・着る服等ご自分で出来る事はやって頂き、出来ない事は支援させて頂いている。また、毛染めを希望される方にはご家族様と共に美容院での毛染めを支援させて頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 施設の畑で収穫した野菜も利用者様に見て頂き、メニューに取り入れる。盛り付けや食器拭き等のお手伝いは利用者様と行っている。献立は利用者様に食べたい料理をお聞きして取り入れる事もある。 | 職員間でメニューを考え、利用者や職員の好みや嗜好等にも配慮しながら、調理や片付け等、利用者もできることに参加している。季節等にも合わせた食事作りやおやつ作りも行われている。また、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 食事・水分摂取量は把握している。食事が進まない方には声かけや介助を行っている。食事形態は身体状態に合わせて変えている。水分が足りない方にはお好きな飲み物を提供するなど個々に合わせて対応している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。 | 毎食後の口腔ケアと毎日の義歯洗浄を行っている。口腔ケアはご自分でやれる所はやって頂き、出来ない部分は仕上げ磨きをさせて頂いている。訪問歯科の先生とも連携がとれている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。 | 個々の排泄間隔を見極め定期的にトイレ誘導を行っている。本人様の羞恥心に配慮し、ご自分で出来る所はやって頂きできない所を支援させて頂いている。 | 利用者の排泄状況の記録を残し、利用者毎の支援経過ノートにも記載しながら、日常的に職員間で排泄状態に関する情報の共有が行われている。トイレでの排泄を基本に、排泄に関する医療面での連携も行いながら、排泄状態の維持、改善につなげている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。 | 排便状況を記録し何日も排便のない方には医師の指示により下剤を服用して頂いている。また献立に食物繊維や乳製品を取り入れ、運動や水分補給をすることで便秘予防に努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。 | おおむね1日おきの入浴を支援させて頂いている。個々に合わせた声かけ・時間にて入浴のお誘いをさせて頂いている。拒否がみられる際は無理強いしない。 | 利用者が週3回を基本に入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方にも声かけを行いながら、定期的な入浴につなげている。身体状態にも合わせた職員2名での支援も行われている。また、季節等にも合わせた入浴も行われている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。 | 夜間良眠して頂くため日中を活動的に過ごして頂ける様支援している。また、日中も体調などに配慮し休んで頂ける様支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 各ご利用者様ごとに個人ファイルがあり、薬の種類・効果・副作用などをまとめている。薬の変更時はその後の症状の確認に努め服薬支援を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。 | 出来る事・出来ない事を一人ひとり把握させて頂いており、レクリエーションや壁紙作り等創作活動の参加や、力を活かした役割・楽しみを通じて気分転換の支援をさせて頂いている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。 | コロナの影響によりなかなか出かける事が難しいが、わずかな時間でも近所の散歩や日向ぼっこを楽しんで頂いている。 | 現状、利用者の外出が困難な状況が続いているが、近隣にある公園まで散歩をする等、可能な範囲でホームから出かける機会をつくっている。季節等にも合わせた花見や初詣に出かける機会もつくり、利用者の楽しみにつなげている。 | デイサービスで行われていたカフェに利用者が出かけていたが、そのデイサービスが廃止になり、利用者の外出先が減っている状況になっている。利用者の外出先の確保等、ホームの取り組みにも期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | お金を持っていないと不安な方に対してはご家族様に了承を頂いた上で本人様に持って頂いている。また個別でおこづかいをご家族様よりお預かりしており必要な物があれば出納帳に記入の上使用して頂けるようにしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | ご家族様宛ての年賀状をご利用者様に毎年書いて頂いている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 安全・清潔で快適に過ごして頂ける様掃除や物の配置をさせて頂いている。また季節に合わせた壁紙や季節のお花を飾らせて頂いている。 | リビングは広めの空間が確保され、利用者がゆったりと過ごすことができる生活空間が確保されている。玄関先にベンチを配置する等の配慮も行われている。また、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品の掲示等、アットホームな雰囲気づくりが行われている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | のんびり過ごせるよう畳コーナーやソファがあり、くつろげるようになっている。1人の時間が欲しい利用者様には自由に過ごして頂いているが孤独感を感じない様様子を見て職員が関わりに入る事もある。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | ご家族様と情報を共有し、ご本人様が今まで使われていた家具などを居室に配置している。また創作レクで作られた作品を飾らせて頂いている。 | 居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた使い慣れた家具類の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、家族の写真や身内の方の作品等を飾っている方もいる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | どこにどの場所と分かりやすいよう貼り紙をして自立した生活を送って頂けるように工夫している。 | | |